

企画展 報道関係資料

マルモッタン・モネ美術館所蔵 Musée Marmottan Monet

モネ展



クロード・モネの肖像
(1903年頃)
Musée Marmottan
Monet, Paris
© Bridgeman-Giraudon

クロード・モネ（1840－1926）は、生前成功した画家で、特に晩年の作品の多くを最期まで手元に残しました。画家の死後、それらはパリのマルモッタン美術館に遺贈され、同館は世界有数のモネ作品を所蔵する美術館となりました。本展ではこのコレクションを中心に、画家が10代で描いたカリカチュア（風刺画）やモネの代名詞である「睡蓮」の連作、晩年に白内障を患ってからも精力的に描き続けた「日本の橋」など約90点をご紹介します。

開催概要

展覧会名 マルモッタン・モネ美術館所蔵 モネ展

会 期 2016年6月4日（土）－8月21日（日）

開館時間 9:00－17:00 *観覧券の販売は16:30まで

休 館 日 6/6（月）、6/13（月）、6/20（月）、6/27（月）、7/4（月）、7/11（月）、7/19（火）、7/25（月）
*8/1（月）以降は無休

会 場 新潟県立近代美術館 企画展示室

観 覧 料 （当日）一般1,500円 大学・高校1,300円
（団体）一般1,300円 大学・高校1,100円
（前売）一般1,300円

*中学生以下は無料です。 *障害者手帳・療育手帳をお持ちの方は無料です。

前 売 り 県内プレイガイド、コンビニエンスストア、近代美術館・万代島美術館ミュージアムショップなどで、6月3日（金）まで販売します。

主 催 新潟県立近代美術館、マルモッタン・モネ美術館、TeNY テレビ新潟
モネ展新潟実行委員会

後 援 在日フランス大使館／アンスティチュ・フランセ日本、長岡市、長岡市教育委員会、（公財）長岡市芸術文化振興財団、新潟県小学校長会、新潟県中学校長会、新潟県特別支援学校長会、新潟県高等学校長協会、読売新聞新潟支局、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、FM ながおか 80.7、新潟・フランス協会、JR 東日本新潟支社

特別協賛 **大成建設**

協 賛 第一生命、光村印刷、損保ジャパン日本興亜、アークベル

協 力 エールフランス航空／KLM オランダ航空、日本通運

企画協力 NTV ヨーロッパ

お問い合わせ 新潟県立近代美術館（学芸課 平石昌子、松本美樹、青木善治、宮下東子）
〒940-2083 長岡市千秋3-278-14 TEL. 0258-28-4113 FAX. 0258-28-4115

開催趣旨

パリ 16 区の閑静な住宅地にあるマルモタン・モネ美術館には、印象派を代表する画家モネが最期まで手元に残した究極のモネ・コレクションが所蔵されています。それらは画家の次男ミシェル・モネにより同館に遺贈されたもので、モネの生前には発表されることのなかった家族の肖像や最晩年の実験的な作品を多く含む他に類を見ない内容となっています。本展では、このコレクションを中心に、画家が 10 代で描いたカリカチュア（風刺画）や、モネの代名詞ともいえる「睡蓮」の連作、さらに晩年に白内障を患ってからも精力的に描き続けた「日本の橋」に加え、モネ自身が収集していた友人や敬愛する作家たちの作品など、約 90 点をご紹介します。

また、印象派の初期から作品を収集したド・ベリオ医師のコレクションから、館外に貸し出されることの少ない貴重な作品として、《テュイルリー公園》が特別出展されます。モネ自身のコレクションによる「究極のモネ展」を、どうぞご堪能ください。

〔展覧会構成〕

特別出展： ジョルジュ・ド・ベリオ・コレクション

収集家として著名なジョルジュ・ド・ベリオ（1828-1894）の印象派コレクションは、彼の死後、マルモタン・モネ美術館に寄贈されました。本展には、門外不出ともいわれる《テュイルリー公園》が出展されます。

【図版】クロード・モネ《テュイルリー公園》1876年 油彩、カンヴァス
54×73cm Musée Marmottan Monet, Paris © Bridgeman-Giraudon



第1章： 家族の肖像

移ろう自然を描くことに情熱を注いだモネは、生涯に肖像画をわずかし描いていません。生前には発表されることのなかった妻や子供たちの肖像画をご紹介します。

【図版】(左) クロード・モネ《ボンボン付きの帽子をかぶったミシェル・モネの肖像》1880年 47×37cm / (右) ピエール＝オーギュスト・ルノワール《新聞を読むクロード・モネ》1873年 61.7×50cm ともに油彩、カンヴァス
Musée Marmottan Monet, Paris © Bridgeman-Giraudon



第2章： 若き日のモネ

モネは少年時代に、学校のノートにカリカチュアを描き、後にその腕前が町中で評判になりました。その売上は、画家を目指してパリに行く費用になったといわれています。

【図版】クロード・モネ《劇作家フランソワ・ニコライ、通称クレルヴィル》1858年
鉛筆、茶色の紙 32×24.6cm Musée Marmottan Monet, Paris © Bridgeman-Giraudon



第3章： 収集家としてのモネ

ジヴェルニーのモネの家には、モネが敬愛したドラクロワや、親しい友人であるルノワールらの作品が飾られていました。モネの創作の源ともなった作品の数々を紹介します。

【図版】ウジェーヌ・ドラクロワ《エトルタの断崖、馬の脚》1838年 水彩、紙
15×20cm Musée Marmottan Monet, Paris © Bridgeman-Giraudon



第4章： モティーフの狩人

モネは旅を好み、国内外で自然や都市の姿をとらえた風景画を描きました。セーヌ川沿いやノルマンディーの海岸の風景、イタリアやオランダの風景画をご紹介します。

【図版】クロード・モネ《オランダのチューリップ畑》1886年 油彩、カンヴァス 54×81cm
Musée Marmottan Monet, Paris © Bridgeman-Giraudon



第5章： 睡蓮と花—ジヴェルニーの庭

ジヴェルニーの庭は、モネが造り上げた作品のひとつです。敷地を広げて池を造り、睡蓮の咲く水の庭を実現しました。後にオランジュリー美術館の大装飾画となる連作の準備のために描かれた作品を含む「睡蓮」や、庭の花々を描いた作品をご覧ください。

【図版】クロード・モネ《睡蓮》1903年 油彩、カンヴァス 73×92cm
Musée Marmottan Monet, Paris © Bridgeman-Giraudon



第6章： 最晩年の作品

最晩年のモネは、白内障の影響もあり、20世紀半ばの抽象絵画を予見させる粗い筆触と強い色調でジヴェルニーの庭のモチーフを繰り返し描きました。「しだれ柳」や「日本の橋」など、モネが生涯手放さなかった作品をご紹介します。

【図版】クロード・モネ《バラの小道、ジヴェルニー》1920-22年 油彩、カンヴァス 89×100cm Musée Marmottan Monet, Paris © Bridgeman-Giraudon



展覧会の3つのみどころ

みどころ1 “究極のモネ展”10代から晩年まで「モネのプライベート・コレクション」

パリのマルモッタン・モネ美術館には、印象派を代表する画家クロード・モネが最期まで手元に残したモネ・コレクションが所蔵されています。その数およそ150点。モネが晩年に取り組んだ「睡蓮」や「日本の橋」だけでなく、10代後半で描いたカリカチュア（風刺画）や30代から40代の風景画も含まれ、モネの画業を辿ることができます。本展では、このモネ・コレクションから選りすぐりの約90点を展示。うち約7割がモネ自身の手によるもので、ほかにはモネ自身が収集した作品やモネ愛用の品をご紹介します。マルモッタン・モネ美術館だからこそ実現できた“究極のモネ展”です。



マルモッタン・モネ美術館内観
Musée Marmottan Monet, Paris
© Bridgeman-Giraudon

みどころ2 特別出展・門外不出の至宝

マルモッタン・モネ美術館には、モネと同時代の美術愛好家、ジョルジュ・ド・ベリオが収集した珠玉の印象派コレクションが所蔵されています。本展には、このド・ベリオ・コレクションから《テュイルリー公園》《雪の効果、日没》が出展されます。ほぼ門外不出の作品を間近にご覧いただける貴重な機会となります。



クロード・モネ《テュイルリー公園》
1876年 油彩、カンヴァス 54×73cm
Musée Marmottan Monet, Paris © Bridgeman-Giraudon



ジョルジュ・ド・ベリオ (1865年頃)
Archives Remus Niculescu

みどころ3 色彩を失ってもなお・・・衰えない情熱

晩年のモネの描く作品は、白内障のために目に映る色が変わり、色調は大胆で鮮やかなものへと変化していきます。その力強い筆遣いからは色感を失う恐怖を抱えつつも、衰えることがなかった絵画制作への情熱が伝わってきます。最晩年の作品をまとまって見ることができるのは、世界で唯一マルモッタン・モネ美術館のモネ・コレクションだけです。



クロード・モネ《日本の橋》
1918-19年 油彩、カンヴァス 74×92cm
Musée Marmottan Monet, Paris
© Bridgeman-Giraudon

「かっこいいモネ。」をよろしくお願ひします。

本展のオフィシャルキャラクターは、俳優・田辺誠一さんが描き下ろした「かっこいいモネ。」グッズや公式SNSに登場する予定です。

©tanave.com



モネ展 広報用画像貸出

本展を各媒体でご紹介いただける場合、以下の画像をお渡しすることができます。
添付の申込書によりお申し込みください。



1. ピエール=オーギュスト・ルノワール
《新聞を読むクロード・モネ》1873年
油彩、カンヴァス 61.7×50cm
Musée Marmottan Monet, Paris © Bridgeman-Giraudon



2. クロード・モネ《トルーヴィルの海辺にて》1870年
油彩、カンヴァス 38×46cm
Musée Marmottan Monet, Paris © Bridgeman-Giraudon



3. クロード・モネ《ボンボン付きの帽子をかぶったミシェル・モネの肖像》1880年
油彩、カンヴァス 47×37cm
Musée Marmottan Monet, Paris © Bridgeman-Giraudon



4. クロード・モネ
《劇作家フランソワ・ニコライ、通称クレルヴィル》1858年
鉛筆、紙 32×24.6cm
Musée Marmottan Monet, Paris
© Bridgeman-Giraudon



5. クロード・モネ《テュイルリー公園》1876年 油彩、カンヴァス 54×73cm
Musée Marmottan Monet, Paris © Bridgeman-Giraudon



6. クロード・モネ《オランダのチューリップ畑》1886年
油彩、カンヴァス 54×81cm
Musée Marmottan Monet, Paris © Bridgeman-Giraudon



7. クロード・モネ《小舟》1887年
油彩、カンヴァス 146×133cm
Musée Marmottan Monet, Paris © Bridgeman-Giraudon



8. クロード・モネ《睡蓮》1903年 油彩、カンヴァス 73×92cm
Musée Marmottan Monet, Paris © Bridgeman-Giraudon



9. クロード・モネ
《バラの小道、ジヴェルニー》1920-22年
油彩、カンヴァス 89×100cm
Musée Marmottan Monet, Paris © Bridgeman-Giraudon



10. クロード・モネ《睡蓮》1917-19年 油彩、カンヴァス 100×300cm Musée Marmottan Monet, Paris © Bridgeman-Giraudon



11. クロード・モネの肖像(1903年頃)
Musée Marmottan Monet, Paris © Bridgeman-Giraudon